

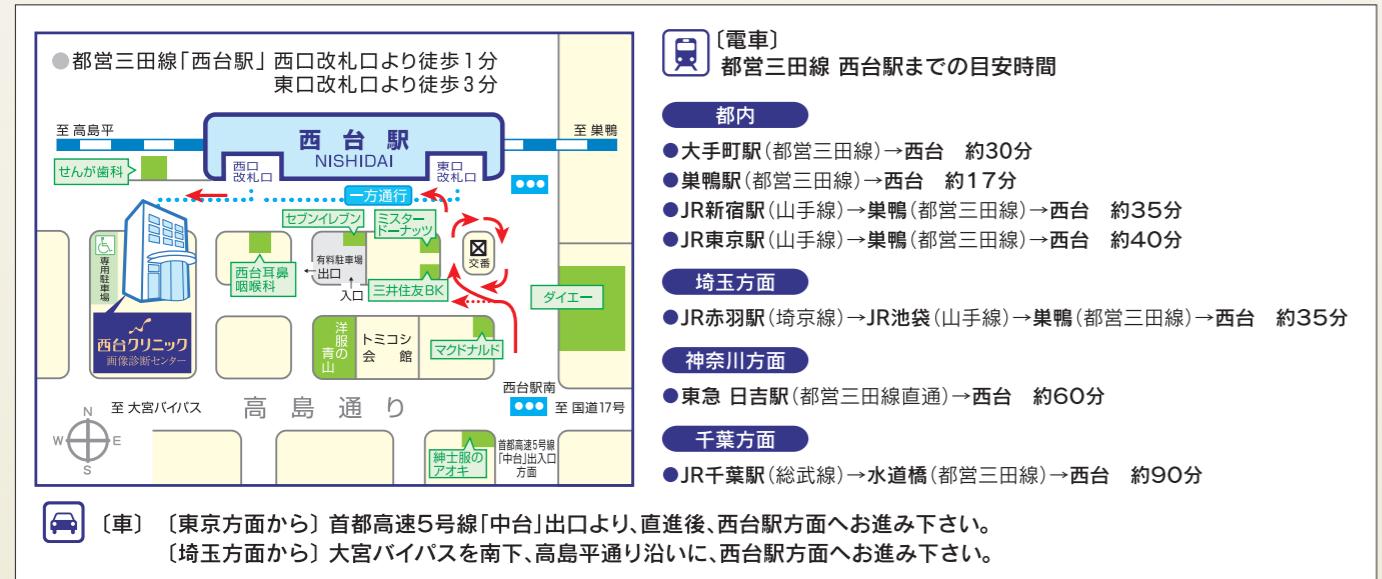
検診コース(完全予約制)

頸=頸動脈 甲=甲状腺 腹=腹部 前=前立腺 乳=乳房 頭=頭部 骨盤=骨盤部

グランドコース (がん総合+脳ドック)	がん総合コースと脳ドックコースを組み合わせた検査を同日で行います。遠方から来られる方、多忙な方々におすすめのコースです。 PET/CT MRI(骨盤・頭) MRA 超音波(頸・甲・腹・前・乳) 生化学(血液・便・尿・腫瘍マーカー) 脈波測定 画像結果説明	249,000円 (約 5.5 時間)
がん総合コース	細胞の働き具合と臓器の形態を同時に調べるPET/CT検査に、MRI、超音波、血液生化学検査を併用し、全身のがんを総合的に検査します。 PET/CT MRI(骨盤) 超音波(甲・腹・前・乳) 生化学(血液・便・尿・腫瘍マーカー) 脈波測定 画像結果説明(有・無)	面談あり 183,000円 (約 4.5 時間) 面談なし 173,000円 (約 3.5 時間)
PET/CTコース	PET/CTのみのコース。当日、画像診断を基にした面談を行います。定期的に人間ドックを受診している方におすすめのコースです。 PET/CT 生化学(血液・便・尿・腫瘍マーカー) 脈波測定 画像結果説明	128,000円 (約 3.5 時間)
脳ドックコース	くも膜下出血の原因となる動脈瘤の有無や脳梗塞の原因となる頸動脈の動脈硬化の進行度をMRI-MRA、頸動脈超音波、血液生化学により検査します。 MRI(頭) MRA 超音波(頸) 生化学(血液・腫瘍マーカー) 脈波測定 画像結果説明	59,000円 (約 3 時間)
心臓スクリーニング	心肥大、弁膜症(弁の異常)、心臓のポンプ機能などの心疾患を、心臓超音波検査、心電図、脈波測定、血液検査を用いて検査します。 超音波(心臓) 生化学(血液) 心電図 脈波測定 血液サラサラ 心不全マーカー検査 画像結果説明	30,000円 (約 2.5 時間)
オプション	●食生活改善指導 5,000円 ●内臓脂肪検査 5,000円 ●血液サラサラ検査 3,000円	

◎その他、乳がんPETコース(143,000円)、ベーシック脳ドックコース(44,000円)もございます。詳しくはホームページをご覧ください。

西台クリニックへのアクセス



●検診のご予約・お問い合わせは
西台クリニック医療情報室
(受付／月～土曜日 9:00～17:00)

TEL.03-5922-0703
ホームページ <http://www.ncdic.jp>



左のQRコードから
当院のモバイルサイトに
アクセスできます。

NISHIDAI CLINIC NEWS

8号



精度の高い検診で 早期発見・早期治療を

- ・受診件数報告
- ・NHK「サキどり↑」が西台クリニックをクローズアップ！
- ・TBSラジオに済陽院長が出演
- ・症例リポート

特別対談

済陽院長×白澤卓二教授

病気にならない、なってもあきらめない。

100歳まで 生きる時代に

がんの い・ろ・は を知る。

- ・[第4回] 肝細胞がん
- ・特製ジュースでがん予防

Topics

- ・西台健康倶楽部第6回健康ランチセミナー開催
- ・書籍のご案内



モロヘイヤ

人参より豊富なβカロテンのほか、ビタミンC、ビタミンB群、ビタミンE、カリウムなど多く含まれ、エジプトでは「王家の野菜」と呼ばれる。

 **NISHIDAI CLINIC**
DIAGNOSTIC IMAGING CENTER
西台クリニック 画像診断センター

2人に1人が三大成人病で亡くなる時代 精度の高い検診で 早期発見・早期治療を



会構造が変化し、生活スタイルも一変した今日、健康面ではさまざまがん疾患が私たちに脅威を与えています。日本人の3人に1人ががんにかかる時代とも言われ、何とかがんを予防する、また早期診断のもとに根治治療を受けて再発しない工夫が求められています。がん発生の原因は過去約半世紀にもよる研究の成果により、**食事が40%、喫煙が30%**など日常生活と大きな関連があることがわかり、生活習慣を見直すこともがん予防の基本と考えられています。

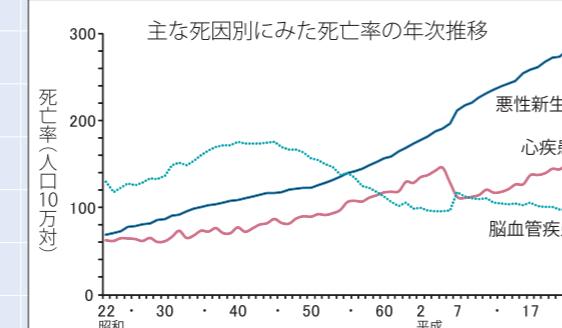
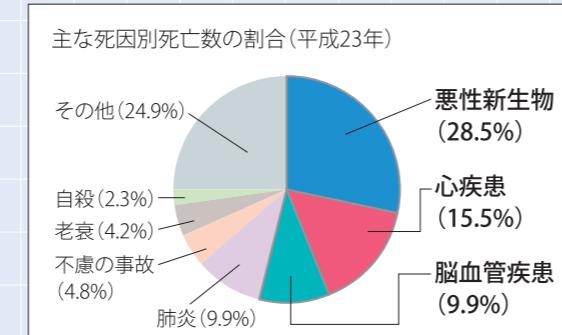
去る6月5日に公表された厚生労働省統計によると、平成23年のがん死亡は35万7千人で前年度よりさらに**4千人の増加**を示し、**死因のトップを31年間独走**し続けております。日本人死亡125万人のうち、**がん、心臓病、脳血管疾患の三大成人病の占める割合は54%**に達し、これらへの対処が求められております。



私どもは過去12年間、PET検査を用いた、がん早期診断に努力を重ね、同時に脳ドックや心臓スクリーニングを併施して、三大成人病の「診断」にも貢献してまいりました。

精度の高い検診による健康状態の確認、病気の前兆段階で捉えた早期診断による早期治療により、より充実した豊穣の日々を過ごされるよう心より祈念申し上げます。

平成24年 芒種 済陽 高穂



西台クリニックの理念

高精度画像による
早期がん診断

新しい
予防医学の推進

総合的
がん診療への貢献

あくなき探求 がん早期発見へのこれまでの蓄積と探求により、新たな検診を提供します。

- 当院では過去10年間に約50,000人という世界でも最大級のPETがん検査の実績を有し、がんを効果的に早期発見するためのノウハウが蓄積されております。
- 全身のがんをより確実に早期発見できるように、どのような検査を組み合わせればよいかを探求しています。
- 検査により、がんなどが発見された方に対しては、治療に最も適した医師、医療機関(大学病院等)をご紹介いたします。

特別顧問 小幡 裕 東京女子医科大学名誉教授 市川 平三郎 国立がんセンター名誉院長

受診件数報告

毎月、全国から数多くの方に受診いただいております。また、癌研病院、がんセンター、全国の大学病院などより依頼を受け、がん患者様の臨床検査を実施しております。

都道府県別受診者数

東京都	— 5,724	茨城県	— 243	愛知県	— 67
埼玉県	— 2,140	栃木県	— 95	大阪府	— 62
千葉県	— 803	群馬県	— 94	長野県	— 61
神奈川県	— 611	静岡県	— 84		

その他 地方別受診者数

北海道	— 35	近畿	— 148
東北	— 92	中国・四国	— 85
北陸・甲信越	— 110	九州・沖縄	— 71
東海	— 11	外国人・在留邦人・他	— 88

合計 10,624人
(2012年6月末現在)

全国大学病院・がんセンターからの紹介

癌研病院	— 56
国立がんセンター	— 33
他・地区がんセンター	— 47
全国大学病院	— 910

合計 1,046人

(2012年3月末現在)

日大病院等	— 749
慶應大病院	— 57
慈恵大病院	— 32

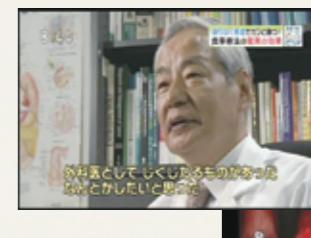
東京医大病院 — 21
東京女子医大 — 20
東大、京大、千葉大、その他 — 31

NHKの「サキどり↑」にて、西台クリニックが取り上げられました!

生

活に役立つ情報や様々な流行を伝えるNHKの「サキどり↑」。6月24日(日)に放映された「減塩」をテーマとしたシリーズで、当クリニックが推進する済陽食事療法がクローズアップされました。

番組では、済陽院長が食事療法を開始したきっかけ、食事療法の8原則、がんに対する優れた治癒率などが取り上げられ、さらには進行がんが見つかった2人の患者さんが、食事療法を通してがんを克服した様子が詳しく紹介されました。



(がんが) 4分の1くらいになっている

TBSラジオでも済陽食事療法を紹介!

早

朝5時より放送されているTBSラジオ「生島ヒロシの健康ひろば」に済陽院長が出演しました。

6月25日(月)から5日間連続で、「がん予防の食生活」

というテーマで、済陽食事療法のポイント、毎日摂りたい食材、がんが減少している米国の現状などについて解説しました。

症例リポート

継続しての受診で大腸がんと診断

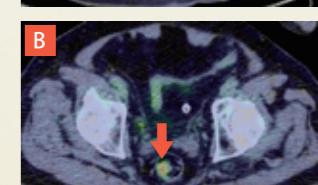
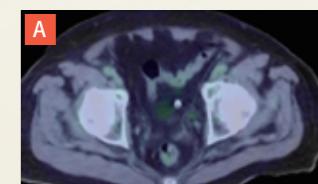
受診者は60歳代の男性。2年前にPET/CT検査を受診した際は異常は見つかりませんでしたが、今回会社の健康診断において便潜血検査で反応が出たためPET/CT検査を受診しました。

検査の結果、直腸壁に薬剤の集積があり、初期の大腸がんの疑いが濃厚に。内視鏡検査でポリープがんと診断。すぐに内視鏡切除で根治しました。

A 2年前に行われたPET/CT検査

B PET/CT検査による大腸への薬剤集積(矢印)

C 内視鏡所見、病理検査画像



【特別対談】病気にならない、なってもあきらめない。

100歳まで生きる時代に

今年3月、情報誌『ゆかい』の企画で、順天堂大学大学院・医学研究科教授の白澤卓二先生と済陽院長の対談が行われました。内科医と外科医という異なる立場でありながら、ともに目指す道は「未病への食事法」です。
(一部を抜粋してお伝えいたします)



高齢者にわくわくした人生の晩年を。

済陽：先生の『100歳までボケない101の方法』はベストセラーですね。20万部突破したころに買いました(笑)。

白澤：ありがとうございます。私は長寿に至る予防医学を専門にしてきたわけですが、これはとてもマイナーな分野でした(笑)。医者は病気を治すことが宿命で、健康になることを伝えることは仕事ではないと思われているからです。

済陽：病気を治す前に、病気にならない仕組みづくりに医者はもっと真剣に取り組むべきだね。僕も年に数回、母校で栄養学や食事指導の重要性を努めて教えるようにしています。

白澤：それは素晴らしい。

済陽：日本国民も賢明だから、自分でしっかり勉強して自分の体は自分で守るという考えにシフトしているね。

白澤：団塊の世代を中心にその動きは活発です。100歳まで生きる、生きてしまうということが当たり前になる、そんな時代になりつつあります。

済陽：それは平均寿命の長さの問題ではなく、日本人の新しい価値観、行動力がもたらす新しい流れなのかも

しれない。100歳まで元気に生きていくことを当たり前にしていく団塊の世代は、新しい文化、文明の担い手になるかもしれないね。

白澤：生活習慣を変えて病気を予防できることを、高齢者の人たちの常識にしていきたい、そして彼らの人生の晩年が世界のどこにもなったようなわくわくしたものにしていきたいのです。

済陽：大賛成だね。

内科医と外科医が「食事」という頂に登ろうとしている。

白澤：ガン、糖尿病、心臓病、脳卒中、アルツハイマー、骨粗鬆症など、人生の後半で多くの人を悩ます病気が、予防可能であるということが常識になってきました。その生活習慣のなかでも適度な運動とともに正しい食事が特に重要であると確信しました。

済陽：対処療法の代表みたいな外科医と、遺伝子を研究してきた予防医学のエキスパートが予期せずして、「食事療法」という同じ頂に登ろうとしている。

白澤：正しい食事法は、いくら声を大にしても大きすぎることはありませんからね。

済陽：要は体の代謝と栄養の関係を、しっかりと把握しなければならないということです。

白澤：済陽先生のようなバリバリの外科医が栄養学とか食事療法に言及されたり、積極的に治療に取り入れられるというのは珍しいですよね。

済陽：都立病院で外科責任者だったとき、外科医としての自負が完膚なきまでに打ち砕かれたのがきっかけです。自分のチームが7年間に手術したがん根治術の5年生存率52%に過ぎず、約半数の患者さんたちが、術後再発などで亡くなられていた。そういう日々の中で出会ったのが、甲田療法やゲルソン療法などの食事療法だったのです。

白澤：1997年米国のガン研究財団と世界ガン研究基金が「ガン予防の15カ条」を発表して、野菜中心の食生活を推奨し、野菜・果物は1日400～800g、摂取カロリーの7%以上、穀類、豆類、根菜類を1日600～800g食べるなど細かく指針していますね。

済陽：先生も書かれているけど野菜や果物はジュースで摂るのが有効ですね。米国は強力な栄養指導の国策の推進で92年よりガン死亡数が年1.1%ずつ減少しています。日本のガン死亡数は右肩上がり、残念極まりない数字です。

白澤：成果は出てきましたか？

済陽：昨年のデータですが、手の施しようがないと宣告された75歳のすい臓ガン患者の場合、約1年間の化学療法と食事療法で50数か所のガンが完治しました。

白澤：それはすごいですね。

済陽：抗がん剤は体を傷つけるので最小限にして速やかに食事療法を並行すべきです。病気の人も進行ガンの人も年をとっていても、食べることができればあきらめてはいけないということです。

白澤：外科医の言葉としてそれは心強いですね。

病気を減らせば、予防すれば、医療費を減らせる。

白澤：いま世の中を騒がせている増税論議の前提になっているのが、社会保障費の拡大です。いかに医療費を、下げるとはいわないまでも上げないようにするかという議論はしてほしいですね。

済陽：医療費を減らす議論は散々されてきたけど、病気を減らす議論は不思議とほとんどされてこなかった。病気を減らせば、医療費を必然的に減らせるのに。

白澤：そうなんです。病気をつくらない予防医学での重要性はまだまだ国も医学界も理解していないですね。私は、病気にならない、病気を予防するための制度変更だけでなく、実際に機能する新しいインフラを構築していきたい。そのためには、予防医学のための国民の常識を新しくつくる必要があると思っています。

済陽：アプローチしてきた道は違っていても、予防医学（未病思想）、とりわけ食事の大切さを白澤先生とともに国民のみなさんに伝えられることは心強いですね。



がんのいろはを知る。

●第4回 肝細胞がん

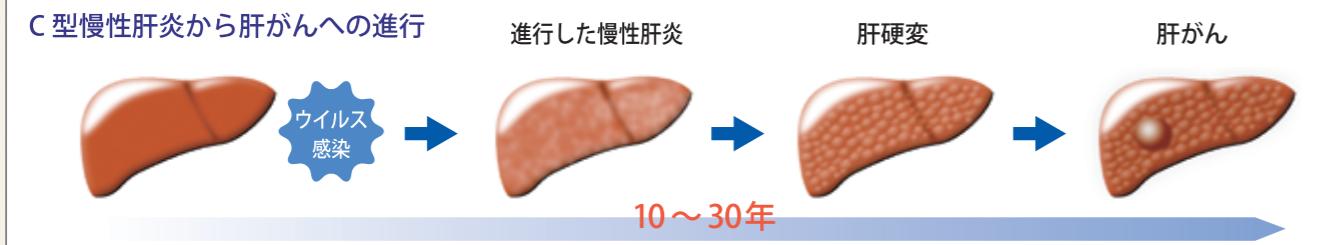
がん死亡数の第3位で、男性に多いのが肝がんです。生涯での罹患率は男性が26人に1人、女性が50人に1人とされ、年間に約32,000人が亡くなっています。肝がんの90%は肝臓の細胞ががん化する「肝細胞がん」です。

肝臓の病気だけに食事やお酒に要因があると思われるかもしれません、原因の多くはB型またはC型肝炎ウイルスの継続感染です。感染ルートの多くは輸血や血液製剤で、特に原因の80%を占めるC型肝炎ウイルスが発見される前の輸血や製剤による感染が多いとされています。また注射器の使いまわし、ボディピアスやタトゥー、不衛生な環境での鍼灸治療、母子感染といった感染も考えられます。ウイルス以外の原因では、少数ではありますが肝機能障害など

どの病気から肝硬変を引き起こし、肝がんへと至る場合もあります。

肝臓は「沈黙の臓器」といわれ、肝炎が発症しても自覚症状に乏しいといわれます。肝炎ウイルスに感染している人は、肝がんのハイリスクグループですので、早期発見・早期治療できるよう定期的な検査が必要です。まずは会社や自治体の健康診断などで、肝炎ウイルスの感染の有無を調べることが大事です。血液検査でチェックできますので必ず受けるようにしましょう。

なお、青魚やウナギなどをよく食べる人は、肝臓がんになるリスクが約4割低下するとの研究結果を、国立がん研究センターが発表しました。魚の油に含まれるドコサヘキサエン酸(DHA)などの不飽和脂肪酸に効果があるようです。



※ 罹患率は年齢階級別がん罹患率(2005年)、死亡数は人口動態統計(2010年)より

※ 1992年以前の輸血、1994年以前のフィブリノゲン製剤、1988年以前の血液凝固因子製剤には、ウイルスのチェックが不十分だった可能性があるといわれています。

特製ジュースでがん予防

葉緑素たっぷりで免疫力もアップ。胃の調子も整えてくれて体が喜ぶ一杯です。

レシピ #04 キャベツとパセリのレモンジュース

材料(約500ml分)

キャベツ	大5枚(260g)
パセリ	2枝(40g)
レモン	大1/2個
リンゴ	大1個(260g)

作り方

- ① レモンは厚い皮をむき、縦4等分に。
- ② リンゴは半分だけ皮をむく。
- ③ すべての材料を順番にジューサーにかけ、グラスにそそぐ。

- ・果物、野菜は農薬を取り除くために水につけておく
- ・果物、野菜はジューサーにかける直前に切る
- ・ジューサーは栄養素が破壊されにくい低速タイプのものがおすすめ



Topics

西台健康倶楽部 第6回セミナー「がんを克服した食事」を開催



4月22日、第6回となる西台健康倶楽部セミナーが、池袋ホテルメトロポリタンにて開催されました。西台クリニック紹介ビデオのあと、済陽院長が「がんを克服した食事」をテーマに講演。我が国におけるがんの現状から、がんを克服するための食材、参考になる書籍、健康を保つ秘訣まで、バラエティ豊かな内容で食事の大切さをわかりやすく解説しました。

講演の後は、がんを克服した患者さんの体験談、そしてランチタイム。今回のセミナーでは初の試みとして中華料理のコースが振る舞われ、参加者は西台クリニックがメーカーと共同開発した青汁で乾杯した後、済陽院長と院長夫人が考案した、30品目の野菜を使用したヘルシーランチを楽しみました。

質疑応答では「ジュースの飲み方」「牛乳やヨーグルト、野菜の見分け方」など、がん予防のための食事について、さまざまな質問が寄せられ、参加者の健康食に対する関心の高さが窺えました。

第7回 西台健康倶楽部 健康ランチセミナー 開催のご案内

2012年11月18日(日) / 池袋ホテルメトロポリタン
詳しくはお問い合わせください。

書籍のご案内

がん食事療法に関する様々な書籍が発行されています。全国の書店でお買い求めください。



がんにならずに
100歳まで生きる
長寿の秘訣!
祥伝社黄金文庫
(2012年6月)
定価552円



がんから生還した
私の常食とジュース
講談社
(2012年5月)
定価1,500円
免疫力UPに役立つ食材
と17名の生還レポート。



今ある
がんが消える
スープ
世界文化社
(2012年3月)
定価1,300円
お腹にやさしく食べやすい
120品のレシピを掲載。

©2012年7月現在、済陽院長の著書はここで紹介したものを含め、各出版社より計34冊発行されています。

Staff Message [技術部]

検査や装置に関する質問や不安がありましたら、お気軽に何でもたずねてください。

技術部は専門知識を持って、ゲスト及び患者様の負担を軽減しよりスムーズに検査が行えるよう尽力しています。PET検査は核医学検査という特殊な検査です。そのため患者様からいろいろな質問をされることがあります。それらの質問に対して専門家として全力で対応させていただいているので、検査装置などに関するご質問がありましたら申し付けてください。

